

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 6月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社 百々		
事業所名	グループホーム 百々		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32 (電話) 058-240-6812		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年6月18日	評価確定日	平成20年7月31日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から4年半たったホームは、幹線道路から一步入った、利便性が高く、静かで安全な場所に位置している。「家族でできて、ホームでできないことはない」という代表の前向きな姿勢に、職員が様々なアイディアを出し合い「あたりまえの生活」を支援・実践している。また、家族も一緒に利用者全員で1泊旅行をしたり、利用者が誘い合って喫茶へ出かけたりと、楽しみを目標にした介護計画も作成している。利用者はそんな毎日を楽しみ、会話も多く、互いに協力しながら穏やかに過ごしている。職員のチームワークは良く、問題があればいつでも話し合い、利用者本位に支援しているレベルの高いホームである。

【情報提供票より】(平成 20年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算	15.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000・42,000 円	その他の経費(月額)	27,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1月当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成 20年 6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 84.6 歳	最低 63 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沢田内科、高瀬歯科
---------	-----------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題であった職員の研修報告については、報告書を作成し職員間で共有を図るようになった。また、他ホームへの訪問・交流が行われるようになったり、できることから工夫し取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を職員同士で話し合うと共に、自己評価を職員全員で行って、ホーム全体のケアの向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の自治会長、老人会、民生委員、包括支援センター職員、家族が出席し2・3ヶ月に1度開催している。ホームの活動報告の他、レクリエーションと同時に開催し、よりホームへの理解を深めてもらうと共に、委員からのアドバイスも受けている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問頻度が高く、意見交換は頻繁に行われている。また、玄関に意見箱も設置されている。家族からの意見に対しては運営者をはじめ全職員が話し合い対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時の挨拶や公園での子どもとの交流、近所からの野菜のおすそ分け、住民が散歩の途中ホームに立ち寄る等、自然な付き合いが日常的に行われている。自治会にも加入し、清掃や会合等に参加している。図書館から利用者の代理で本を借りて来る地域ボランティアの他、レクリエーションボランティアも多い。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中でこころ安らぐ毎日を」という理念の下、開設当初より地域と密着した家（ホーム）をめざし、日々実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念をミーティングや業務前に唱和し確認している。また、玄関や各ユニットに掲示、パンフレットにも掲載し、利用者・家族も含め実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時の挨拶や公園で子どもとの交流、近所からの野菜の差し入れ、住民の立ち寄り等、自然な交流が日常的に行われている。自治会にも加入し、清掃や会合等に参加している。図書館の本を借りて来る地域ボランティアやレクリエーションボランティアも多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員同士で話し合うと共に、自己評価を職員全員で行い、ホーム全体のケアの向上に活かしている。前回評価での改善課題も工夫し、できることから取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会長、老人会、民生委員、包括支援センター職員、家族が出席し開催している。ホームの活動報告の他、レクリエーションと同時に開催し、よりホームへの理解を深めてもらうと共に、委員からのアドバイスも受けている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の利用者の状況を報告したり、相談をする他、町立保育園との交流を申し入れる等、積極的に働きかけ日頃から連携をとっている。	○	町内には、より良い福祉サービスの提供を目指し、創意工夫している事業所が多々ある。行政の理解と協力を得られるよう働きかけ、各事業所とも協働し、持てる機能を活かし、地域の福祉力の向上に結びつける取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日常的に訪問する家族が多く、その折に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。遠方の家族には日頃から電話連絡をしている。また、月1回の金銭報告が行われ、同時に暮らしぶりが分かる写真を個々の家族に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問頻度が高く、意見交換は頻繁に行なわれている。又、玄関に意見箱も設置されている。職員の顔と名前が一致しないという家族からの意見には、ホーム入口に顔写真入の職員紹介を掲示する等、意見に対して運営者をはじめ全職員が話し合い対応している。	○	重要事項説明書等の苦情窓口はホーム管理者だけでなく、第三者の窓口を明記・家族等に説明し、意見表出の機会を多く作りたい。また、家族等の意見を、家族アンケート等により、掘り起こし、吸い上げる努力・工夫が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職率は低い。同法人の新ホーム開設時に異動があったが、最小限に抑え利用者へのダメージはなかった。ユニットごとに職員が配置されているが、ユニット間で日常的に交流があり、ホーム全体でカバーできる体制がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は情報を職員に提供し、希望者が研修会に参加できるよう勤務体制等を配慮している。研修内容は他職員に報告し、共有を図っている。2カ月に1回開催される町主催の研修会にも職員は交代で参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の研修会等で同業者と交流する機会は多い。また、職員のみならず利用者も一緒に町内他ホームへ訪問して交流を図ったり、時には、利用希望者に、家族の面会のことを考慮して、家に近い他ホームの紹介をしたりとネットワークをつくっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に極力本人にもホームを見学をしてもらい、他の利用者と過ごし雰囲気に慣れてもらうようにしている。また、家庭を訪問し、本人・家族と面談してきめ細かい聞き取りを行った上でサービスを開始している。家族には、面会や外出等一緒に過ごす時間をできるだけ作ってもらえるよう依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、職員に混じって手伝いをしている利用者が多い。料理の仕方や梅干の漬け方等利用者の経験を、職員は尊敬の念をもって教えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員を多く配置し、利用者一人ひとりと話す機会を大切にし、思いや希望・不安の把握に努めている。意思疎通が困難な人には、家族等から情報を得て利用者本人の意向を推考し、支援するよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の希望や意見を聞いたり、表情や日常の様子を考慮しながら、月1回の職員会議で全職員が意見を述べ合い、計画を作成している。転倒等の心配があり見守りが特に必要な利用者は「見守り強化表」で30分ごとに安全を確認する等、アイデアを出し合い個別の支援に取り組んでいる。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個別の介護記録は、介護計画に沿って記録し、見直しの際反映できるような仕組みづくりを工夫している。定期的他、必要に応じて見直しているが、変更の際は、利用者の状況と見直し案を本人・家族に説明して意見を聞いて作成している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>面会者の宿泊、家族が対応できない場合の通院介助、得意な職員が行うカットや髪染めの理美容サービス等、柔軟な支援が行われている。また、日常生活自立支援事業の手続き等の支援も行い活用している利用者もいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ホームの協力医を説明すると共に、利用者の希望のかかりつけ医の確認をとっている。協力医へは週1回の受診の他、往診や緊急時の対応も可能である。又、救急で運ばれる場合の、家族の希望病院も確認されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方、ホームの対応は、入居時に説明し、本人や家族に話している。入居後も利用者の状態変化に伴い本人や家族の意向を確認しながら医師からの説明を受ける機会を設けている。また、ホームでできること・できないことを職員・家族と話し合い、方針を共有している。	○	トラブルを引き起こさないためにも、ホームの方針について、入居時等の口頭説明だけでなく、本人・家族とで合意書を取り交わすことも考慮されたい。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームの目指す「大きな家族」のように、運営者をはじめ職員と利用者の関係は親子や兄弟のごく自然であるが、利用者の尊厳を大切にする想いや対応は根付いている。ホーム内の利用者の写真掲示にも本人・家族の同意を得る等、配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者同士で誘い合って喫茶店に出かける人、ホーム前の自販機に飲み物を買に行く人、畑や花木に水をやる人等、利用者一人ひとりが自分に合った生活習慣で時間を過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で取れた野菜を漬物やお浸しにしたり、近所からのおすそ分けの果物が食卓に上る。包丁を使う人も多く、調理・盛付・配膳・食器洗い等役割をもち、利用者同士も互いに協力・交流しながら取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望の時間・曜日・回数等できる限り柔軟に対応している。また、利用者の入浴スタイルに合わせて椅子やマット等の使用・配置を考慮し、安全に入浴が楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	回覧板を回す、敷地内の草引き、洗濯たたみ、リビングや居室の掃除等個人の楽しみや好みに合わせた仕事をできる範囲で役割をもって行ってもらっている。ホームにあるたぐさんの鉢に水やりを丁寧にする利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑や公園が周りにあり、日常的に散歩を楽しんでいる。その他、買い物や外食、花見や法人内他ホームと合同（利用者家族も一緒）で1泊旅行に出かける等、楽しみのある生活を積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、廊下の避難口、居室等、日中は鍵をかけず自由な暮らしを支援し、見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練を行っている。	○	今後は、有事の際の地域との協力体制を整えていきたいとの事で、運営推進会議や避難訓練時に地域へ呼びかけたり、避難の具体的な支援方法を共有する等、できることから取り組まれない。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記入・把握し、必要に応じて補食や水分補給に配慮している。利用者の状態に応じて刻み食やとろみをつけた食事を提供している。	○	栄養バランスを考慮し献立が作られているが、更には、一度管理栄養士にカロリー等をチェックしてもらおう機会があるとよい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下等広々とした共有空間は、風通し・日当たりが良く、心地よい空間となっている。キッチンを利用者と職員が協力して作業できるよう配置してあり、2階の広いベランダでは、利用者も安全に洗濯物干しができる。また、金華山が望める等展望も良い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物やなじみの品々を持ち込んでもらうよう依頼してあり、利用者にとって落ちつける居室となっている。収納が広く季節物等は片付け、安全にも配慮している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。